



2022年に頸椎けいすいの手術で左腕が上がりにくくなり、しびれで右手を使いつらくなりました。翌年には滑って右腕を粉碎骨折しました。二度の手術後も右手のしびれがひどく、力が入らない、字を書きにくいなどの不便が続き、悩んでいます。(78歳、女性)

手術後のしびれ

しびれの原因には大きく2種類あります。肘の内側をぶつけた時に小指にしびれが走るなど神経の刺激や損傷で起きる「神経障害」と、もう一つが「血流障害」で、長時間の正座による足のしびれなどが相当します。今回手術後にしびれ感を自覚されたことが

いか、脊椎専門医の診察をお勧めします。圧迫がないのにしびれがある場合、神経除圧の反動や残存症状が疑われます。神経は皮膚や血管など他の組織に比べ回復力が乏しく、障害が大きいと完全には回復せず、まひやしびれが残ったり、逆に

イドの内服や注射が有効な場合もあります。気温も影響するので、手袋やカイロでしっかり温めることも大切です。手術の翌年には右腕を粉碎骨折され、字を書きにくいなどの症状から、骨折部位は手首であったと推察しま

す。頸椎に加え、骨折部でも神経を傷めている可能性もあるので、手外科専門医を受診し、まずは原因部位を明らかにし、それぞれに対応した治療を受けることを提案します。

(兵庫県医師会、美船泰二神戸大整形外科医師)

◇第1、3、4日曜に掲載します。

まずは原因部位の確定を

ら、頸椎に関連した何らかの神経障害を考えます。

強くなったと感じたりする場合があります。

す。粉碎骨折では完全に元通りの形に戻すことは難しく、

頸椎は7個の骨からなり、内部を脳・延髄から続く脊髄(頸髄)が通り、そこから枝分かれた第5〜8頸椎神経根が肩・肘・手に向かいます。まずは頸椎手術後も頸髄や神経根の圧迫が残っていない

筋力の回復も関係するの で、根気よくリハビリを行うことで改善する可能性があります。治療には神経の回復を助けるビタミンB12製剤があり、強いしびれには神経痛用の鎮痛薬に加えステロ

の場合によっては関節の動きに制限が残ります。動きの制限には、人に曲げ伸ばしをしてもらっても動かない「拘縮」と、人にしてもらうと動くが自分では動かせない「まひや腱の癒着」がありま